特定非営利活動法人　ジャパン・フィルムコミッション
2025 年 1 月 22 日

2 月 15 日（土）・16 日（日）フィリピン・マニラにて日本映画上映会＋Japan Day イベント開催決定

『ぼくのお日さま』、『DitO』、『駒田蒸留所へようこそ』、『レディ加賀』、計 4 作品上映決定！
上映後の監督登壇トークセッションも実施。
日本の魅力を発信する JAPAN DAY フェアを同時開催！

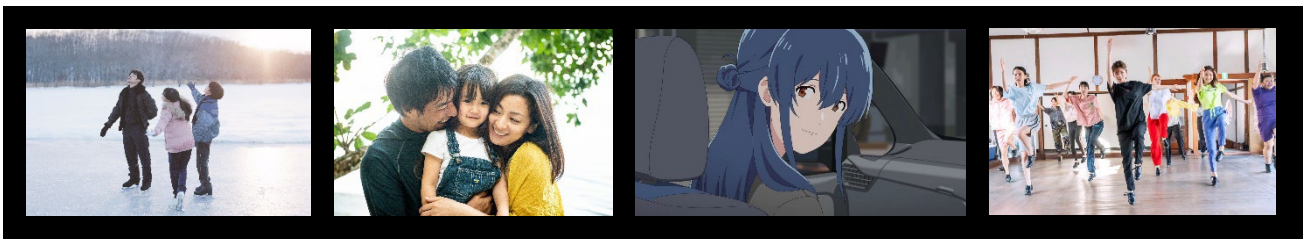
Journey through JAPAN on SCREEN

Presented by Agency for Cultural Affairs, Government of Japan and Japan Film Commission
in cooperation with The Japan Foundation

文化庁は、「国際共同製作映画等を通じた魅力ある日本文化・芸術の発信事業」として、今年度より ASEAN 諸国で日本映画上映会の開催とともに映画にちなんだ日本の魅力あるロケーション、各地の物産など紹介する JAPAN DAY フェアを展開していきます。初年度となる今回は、「Journey Through Japan on Screen」と題して、フィリピン・マニラにおいて開催します。本事業は独立行政法人国際交流基金が主催する「Japanese Film Festival（JFF）」と連携して行われる特別上映企画となります。

イベントを通じてより多くの方々に日本と ASEAN とのつながりや、日本の豊かな芸術・文化に触れていただき、訪日の契機となることを期待しています。

＊「令和 6 年度　国際共同製作映画等を通じた魅力ある日本文化・芸術の発信事業」は文化庁より特定非営利活動法人ジャパン・フィルムコミッションが受託し、企画・運営しています。



Journey Through Japan on Screen in Manila 2025 はフィリピンの首都マニラにて 2 月 15 日（土）・16 日（日）、独立行政法人国際交流基金マニラ日本文化センターが主催する Japanese Film Festival *（1/30－3/2）の特別上映企画として開催いたします。フィリピンは平均年齢 24 歳と ASEAN 諸国では 3 番目に若く、活気がありさらなる成長が期待されています。若い世代を中心に日本の優れた作品を訴求できるよう今回は日本映画・日本合作映画計 4 作品をマニラ市街地に位置する数々の映画祭会場となっている Red Carpet Cinema（Shangri-La Plaza 内）にて上映を開催します。上映作品の『ぼくのお日さま』からは奥山大史監督、『DitO』からは結城貴史監督に参加いただき、さらに開催国フィリピンからもマイケル・ホアキン監督に参加いただき、上映後のトークセッションなどにご登壇いただきます。

また Shangri-La Plaza の催事会場では、“JAPAN DAY”として上映作品に関係する自治体、観光関連団体のご協力を賜り、映画にちなんだ日本の魅力あるロケーションや各地の物産品を紹介するイベントを併催いたします。イベントスペース内にて、パネル展示やサンプリングなどを実施します。

フィリピンの方々に日本の魅力を発信する Journey Through Japan on Screen にぜひご注目ください。

【Japanese Film Festival 特別上映企画 Journey Through Japan on Screen 概要】

■主催：文化庁
■共催：特定非営利活動法人ジャパン・フィルムコミッション
■協力：独立行政法人国際交流基金
■期間：2025 年 2 月 15 日（土）、16 日（日）
■会場：Shangri-La Plaza　Red Carpet Cinema(6 階)
Shang Central, Epifanio delos Santos Avenue, Ortigas Center, Mandaluyong City, 1550 Metro Manila, Philippines
■上映スケジュール:
2 月 15 日（土）
・『駒田蒸留所へようこそ』
・『DitO』＊トークセッション登壇ゲスト:　結城貴史監督、マイケル・ホアキン監督
2 月 16 日（日）
・『レディ加賀』
・『ぼくのお日さま』＊トークセッション登壇ゲスト:　奥山大史監督
＊上映開始時間詳細は後日発表予定
■JAPAN DAY
・参加地域：北海道、小樽市、札幌市、石川県、加賀市、金沢市、長野市、富山県、北九州市、沖縄県、他
・参加団体：株式会社箔一、他
■Journey Through Japan on Screen 公式サイト　https://www.japanfc.org/news/manila_2025.html
Japanese Film Festival*（JFF）　https://japanesefilmfestph.jfmo.org.ph/about-jff/
*日本映画祭（JFF）は、フィリピンでは「EIGASAI」として広く知られ、愛されてきました。国際交流基金マニラ日本文化センターの主催事業として 1997 年に始まり、年々規模が拡大し、現在では毎年 25,000 人以上の観客が集まる最も規模の大きい国際映画祭の一つとなっています。ドラマ、アニメ、恋愛、ミステリー、また最近公開されたばかり新作映画など、様々な日本映画が上映されることでも知られています。

【上映作品】

『DitO』2024 年／118 分／日本・フィリピン
第 19 回シマオンザバユー最優秀作品賞受賞他

監督：結城貴史
脚本：倉田健次
出演：結城貴史／田辺桃子／尾野真千子／モン・コンフィアード／ブボイ・ビラール／マニー・パッキャオ
©DitO × KURUWA_Film

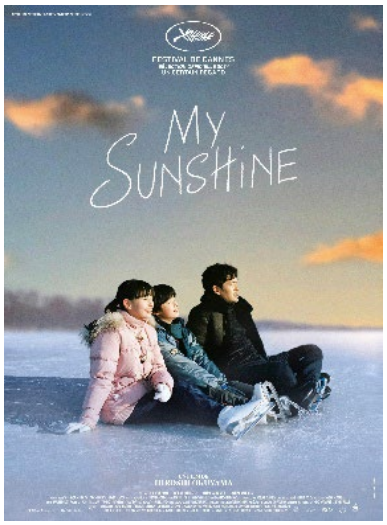
プロボクサーの神山英次（結城貴史）は、フィリピンで再起を図っていたが、試合は組まれず、40 歳を迎えた。突然、元妻の訃報とともに娘・桃子（田辺桃子）が訪れる。父との再会に動揺する桃子と英次が不器用な共同生活を始め、二人は親子の形を模索する。奇跡的に試合が組まれ、英次は自分たちの居場所を手に入れるために戦う決意をする。この物語は、ボクシングを背景に、「親」、「子」の成長と存在を描く

『駒田蒸留所へようこそ』2023 年／91 分／日本（フィリピン初上映）
アヌシー国際アニメーション映画祭コントルシャン部門正式出品作品

監督：吉原正行
脚本：木澤行人／中本宗応
キャラクター原案：高田友美
キャラクターデザイン・総作画監督：川面恒介
アニメーション制作：P.A.WORKS
キャスト：早見沙織／小野賢章／細谷佳正
©2023 KOMA 復活を願う会／DMM.com

「花咲くいろは」「SHIROBAKO」の P.A.WORKS が制作を手がけた長編アニメーション。世界からも注目されるジャパニーズウイスキーを題材に、傾いた蒸留所の再起に奮闘する若き女社長の奮闘を描く。先代である父親の跡を継ぎ、実家の駒田蒸留所の社長となった駒田琉生(早見沙織)。経営難に陥った蒸留所の立て直しとともに、災害の影響で製造できなくなった“家族の絆”とも呼べる幻のウイスキーの復活を目指す。

『ぼくのお日さま』2024 年／90 分／日本
第 77 回カンヌ国際映画祭オフィシャルセレクション「ある視点」部門
正式出品作品



監督・撮影・脚本・編集：奥山大史
出演：越山敬達／池松壮亮／中西希亜良／若葉竜也
© 2024「ぼくのお日さま」製作委員会 / COMME DES CINÉMAS

雪の降る街を舞台に、吃音をもつホッケー少年のタクヤと、フュギュアスケートを学ぶ少女さくら、そして元フィギュアスケート選手でさくらのコーチ荒川の 3 人の視点で紡がれる物語。長編初監督作『僕はイエス様が嫌い』（ 2019 ）で、第 66 回サンセバスチャン国際映画祭の最優秀新人監督賞を受賞し、本作が長編 2 本目の商業デビュー作となる奥山大史が監督・撮影・脚本・編集を手がける。

『レディ加賀』2024 年／108 分／日本（フィリピン初上映）
第 10 回シルクロード国際映画祭コンペティション部門正式出品作品

監督：雑賀俊朗
脚本：渡辺典子／雑賀俊朗
キャスト：小芝風花
©映画「レディ加賀」製作委員会

主人公となるのは、温泉地を盛り上げるためにタップダンスチームを結成した旅館の新米女将。挫折やトラブルを乗り越え、仲間と奮闘しながら前進していくヒロインが、最高の笑顔と元気を届けてくれる。 10 年前に旅館の女将たちによって結成された、実在する加賀温泉郷のプロモーションチーム「レディー・カガ」から着想を得て企画された本作。タップダンスチーム結成への挑戦を通して、同じく新米女将である仲間と汗をかきながら、“ピンチに負けない底力”と“真のおもてなし精神”を身につけていくヒロイン・樋口由香を演じるのは、確かな演技力と愛らしい笑顔で映画やドラマなどに引っ張りだこの小芝風花。

＜お問い合わせ＞
特定非営利活動法人　ジャパン・フィルムコミッション
〒104-0045 東京都中央区築地 4-1-1　東劇ビル 8F
TEL 03-6264-2042 FAX 03-6264-2043
担当：木村祐弥子　kimura@japanfc.org　成川友子　t.narikawa7613@gmail.com